腹腔鏡併用腟式子宮全摘術を受けられる方へ ▪

患者ID：　　病棟：　　主治医：　　担当医：

氏名　　受持看護師：

	入院日	手術前日	（手術前）　手術当日　（手術後）		手術後1日目	手術後2日目	手術後3日目	手術後4日目	術後5日目～退院
目標	体温・血圧・脈拍が安定している。 手術の説明が分かる。		痛み止めを使って、痛みをやわらげます。 体温・血圧・脈拍が安定している。		傷から血や液が出ていない。　痛み止めを使って、痛みをやわらげます。		病棟内歩行ができる。		退院後の生活の注意点が分かる。 傷に、赤み・腫れ・痛みがない。
説明	看護師がお話しをうかがい、入院生活と手術前後の経過や処置について説明をします。 	（主治医より） 手術について説明します。 （麻酔医より） 麻酔、手術前の食事や水分摂取について説明します。 同意書をお渡しします。 署名後、看護師にご提出ください。	ご家族は、手術に出る時間までには病院にお越し下さい。 	主治医から、手術の結果について説明があります。 	 医師の記入が必要な書類などありましたら、 平日日中に1階玄関ホールにある診断書受付までお出しください。				（看護師より） 退院後の生活について説明します。 （主治医より） 退院後の外来受診や服薬等について説明します。
検温	適時	1回	6時・手術室へ行く前	帰室時1・2・3・6時間後 それ以後翌日6時まで 4時間毎(指示有り)	4回	4回	2回	1回	1回
排泄	尿量測定を始めます。	尿量測定を続けてください。		手術中に尿道留置カテーテルを入れます。	動けるようになれば、尿道留置カテーテルを抜きます。病棟内トイレまで歩けます。 尿量測定を続けてください。		尿量測定は15時で終了です。		
処置		おへそのそうじをします。 陰毛のカットをします。 夕食後浣腸があります。	6時以降、浣腸があります。 午後より手術の場合、朝より点滴があります。 	手術室より酸素を付けて帰って来ます。 背中に痛み止めのチューブが、お腹にドレーンが付いてくる場合があります。 点滴は主治医の指示あるまで持続で実施します。	採血、採尿があります。 朝に酸素投与を中止します。 動けるようであれば、弾力ハイソックスを脱いでかまいません。 医師の診察があります。創の消毒をします。 点滴は夕方まで持続です。	医師の診察後に、お腹のチューブを抜きます。 痛み止めがなくなれば、背中に入っている痛み止めのチューブを抜きます。	採血、採尿があります。 	創部の抜糸をする場合があります。	（術後6日目） 採血、採尿があります。 医師の診察があります。
準備	必要物品を購入してください。 （ T字帯1枚・ナプキン ） 看護師がお預かりします。	身の回りの荷物を一つにまとめ床頭台上に、ナプキン1袋、パンツ1枚、体温計、ティッシュ等をセットしておいてください。	朝起きたら、弾性ハイソックスを履き、病衣に着替えておいてください。 下着はパンツのみつけます。						
投薬	内服している薬は続けて服用してください。手術のため、内服薬をお預かりします。 寝る前に緩下剤の内服があります。 	眠れない時は眠剤内服が出来ますのでお申し出ください。 	麻酔科医の指示で手術前に安定剤の内服がある場合があります。	術後は喉の痛みに対し、トローチを渡します。 	10時より腸の動きをよくする漢方薬を飲み始めます。 				
安静	制限ありません。			ベッド上安静。膝を立てたり腕を動かしたりはかまいません。 体の向きも変えても構いませんが、難しい時は看護師が介助します。	病棟内トイレまで歩けます。 最初は看護師がそばで見守ります。	病棟内は制限ありません。	院内は制限ありません。		
食事	制限ありません。	昼食より低残渣食となります。	食事は食べれません。 水分摂取は麻酔科医の指示に従ってください。		朝から水分開始、昼から重湯が開始になります。 	昼から5分粥になります。	昼から全粥になります。	昼から普通食になります。	
清潔	入浴可能です。				体を拭いて、お下も洗います。お手伝いしますが、出来る範囲でご自分でも拭くようにしましょう。 着替えもします。	体を拭くタオルをお持ちします。出来る範囲でご自分でも拭くようにしましょう。 トイレでウォッシュレットをご使用ください。		シャワー浴が開始となります。 	

2021年07月 第3版
印刷日：
印刷者：

（ 状態により多少前後することがあります ）

高知大学医学部附属病院

産科婦人科